

「河川砂防技術研究開発」(平成23年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
河川縦横断測量を高度化、効率化するための航空機レーザ計測適用に関する研究（研究期間：H23年～H25年）	(株)パスコ 坂下 裕明	A
<p><研究概要></p> <p>本研究は、従来の河川縦横断測量の代替手段として、水中の観測が可能なグリーンレーザを用いたALB（*）を活用するための研究である。研究の結果、一級河川におけるALB計測可否の判定基準を設定することができた。また、一級河川（指定区間外）のうちの調査対象とした延長約3,600kmについて、約50%の河川においてALB計測が可能であり、残りの河川においても現地測量を組み合わせることで、部分的に計測可能な区間があることが判明した。面的な地形データが構築でき、かつコスト削減が可能であることから、日本の河川にALB計測が適用可能と判断した。</p> <p>（*）… 航空機レーザ測深機（Airborne Laser Bathymetry）</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>グリーンレーザを用いたALBによる河川水面下の地形データ取得にあたり、河川の水質、地形等の適用条件が明らかにされており、当初の目標を達成する優れた成果が得られたと判断できる。</p> <p>また、日本の複数の河川での実証計測を行い、計測精度や適用可能性を検証した点も評価できる。</p> <p>本研究により、ALB計測技術が実用化段階まで引き上げられたと考えられ、今後、官民で導入の方策について検討が進むことを期待する。</p> <p>なお、本研究については、委員会の審議を踏まえ、研究計画を見直しながら研究が進められたことにより、今回の成果につながったものであることを付言する。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い